

市の諸課題に対する新市長の考え方が明らかに！

11月議会の一般質問で明らかとなった、諸課題に対する新市長の考え方について、当選前の主張や公約と、市民クラブの考え方や市長評価と併せてご紹介します。

課題等	市民クラブ	新市長(大沼あきほ)		評価
		当選前の主張や公約	→ 当選後の議会答弁	
財政	健全である。	大変厳しい状況と認識。	→ 現在の財政運営は健全と認めるが、市民に伝わっていない。	△
鉄道高架事業	推進すべき。	財政状況を疑問視。推進派は本事業が必要な理由の説明を。情報公開しつつ、専門家により財政状況や事業効果を早期に再検証する。	→ 世界一の沼津のために資するものとの認識はあるが、情報公開しつつ、専門家により財政状況や事業効果を再検証する。検証の時期や期限は設けない。	△
貨物駅用地の買収	スピード感を持ち進める。	検討した上でやる。	→ 反対の意見を尊重しながらも用地交渉は行っていく。	△
(仮称)らぽーと沼津	推進すべき。	街を破壊するものとして、反対。	→ 世界一元気な沼津にするために効果的であり、推進していく。	○
ごみ処理場(新中間処理施設)	建設コスト高騰による延期は妥当。適切な建設時期を見極めていく。	建設を延期したのは、財政に問題があるため。	→ 建設コスト高騰による延期は妥当。適切な建設時期を見極めていく。	○
防災・減災	地震・津波対策アクションプランを着実に推進。	避難タワーや避難路を設置。	→ 市が進める津波避難シミュレーションの結果(H30)が出てから考える。	△
大学誘致	誘致できれば良いが、そう簡単な話ではない。	情報系の大学を誘致。	→ 場所を含め、具体的な考えはない。情報系にこだわらず、高校生の入りたい大学であれば良い。簡単ではないと認識。高専や専門学校にも声掛けする。	×
市長給与	選挙用パフォーマンスであってはならない。	半減する。	→ 2年間は半減する。自らの厳しい目で実績を振り返り、その後の対応を決める。退職金の半減は、退任時に自ら判断する。	△

編集後記

新たな舵取り役が誕生して最初の議会は、市長の主張が当選前後で大きく変わったことなどから審議が滞る場面が多くありました。2月議会では、平成29年度予算の審議を行います。市の発展、市民の幸せのために、丁寧に取り組んでいきます。

ホームページを覗いてみてください。

沼津市民クラブ

検索

かもめだより No.24

沼津市議会 会派「市民クラブ」会報

2016年12月16日
9・11月定例議会 合併号
発行 市民クラブ
発行責任者 鈴木 秀郷

11月議会 所属議員の活動

11月議会での一般質問など、各議員の活動を紹介합니다。

河川の安全確保、着実に推進

大平地区において狩野川の堤防改修工事が進んでいます。河川の安全確保は、安心安全な市民生活のために欠かせません。引き続き、皆さまの声を活かして、鋭意取り組んでいきます。



鈴木 秀郷議員

副議長として新市長に要請

挨拶に訪れた新市長に3点伝えました。①二代表制のもと議会は是々非々で対応する。②一般質問は議会が紛糾しないよう臨んで欲しい。③周辺市町の首長と、早期の信頼関係構築を。



渡部 一二実議員

市長の信念を盛り込んだ平成29年度予算編成を！

予算編成は市民生活に直結するもの。短期間での予算編成になるが、沼津市の未来のために、責任を持った、スピード感ある決断を求める。



原 信也議員

チャンスを活かし、特例市から中核市への移行を！

移行により、一層の事務や権限の委譲が可能となるが、見送れば、いずれは一般市と同格になってしまう。市長は判断を見誤らず、推進すべき。



梶 泰久議員

高尾山古墳と道路の両立、地元置き去りでは進まない！

県公安委員会や地元にも認められず、頓挫している現況は、地元置き去りで進めてきた姿勢によるもの。古墳の現地保存による両立を目指すのなら、相応の努力を。



深田 昇議員

より良い教育が受けられるための環境整備を！

情報教育が小中学校へ導入されて久しく、その進歩発展はめざましい。より良い教育活動のため、早期にICT教育を充実させる取り組みを。



霞 恵介議員

9月議会

所属議員の活動



梶原 渡部 鈴木 霞 深田

9月議会での一般質問など、各議員の活動を紹介します。

下香貫～大平間 を工事中、静浦バイパス

鈴木

交通渋滞解消や災害対策のために整備している静浦バイパス。これまで各所への要望や調整を進めてきた成果が、ようやく出てきました。



議長を補佐する 副議長として日々奮闘中

渡部

初の決算審査に臨み、「北朝鮮のたび重なる核実験に強く抗議し、断固とした措置を求める意見書」の取りまとめに尽力しました。



総務委員会 委員長として視察を実施

原

ふるさと納税や地震対策、公共施設の跡地利用について、先進市を視察。今後の政策提言に活かしていきます。



土地の戦略的な 利活用を！

梶

(仮称)ららぽーと沼津の事例のように、市街化調整区域の柔軟で効果的な土地利用を推進することが重要。



伊豆半島ジオパーク の世界認定を後押し

深田

地球の遺産として世界ジオパーク認定を目指す動きに連動し、伊豆半島の素晴らしさを知って頂く前夜祭を実施。企画、運営に当たりました。



全小中学校の普通 教室にエアコン設置を

霞

高温多湿の状況など、子どもたちを取り巻く環境は厳しい。学習の集中度低下や健康への対策として、エアコン設置が必要。



香陵運動場と少年自然の家跡地の活用進行中

スポーツ・教育・憩いの場として愛されてきた、香陵運動場と少年自然の家の跡地について、今後の活用に向けた動きをご紹介します。

1. 香陵運動場跡地

新市民体育館を含む香陵公園周辺整備の一環として、香陵運動場跡地に仮設の駐車場を整備します。

市営香貫駐車場の建て替えをするための、暫定的な平置きの駐車場です。3,700万円をかけて年末～年明けに着工し、4月より利用開始の予定です。



香貫駐車場の202台より多い、250台程度が駐車可能です。暫定駐車場ですが、渋滞やストレスなく利用できるようにしていきます。

2. 少年自然の家跡地



平成29年3月末で運営を終了し、跡地を民間事業者へ運営委託します。その準備として11月より休所し、市が5,000万円をかけて、施設の修繕や更新、解体などを行っています。

受託したのは東京を拠点とする事業者で、「泊まれる公園」をコンセプトに、周辺のスポーツ施設と連携した運営を考えているとのこと。

年に数えるほどしか市内小中学校に利用されないなど、利用者が少ない状況でした。



公有用地の利活用は、重要課題の一つです。引き続き、市民目線で声を挙げていきます。皆様の思いをお寄せ下さい。